



あさひ

横浜市立旭小学校 SINCE 1901

令和6年3月
学校だより



今年度のご支援、ありがとうございました

校長 益子 照正

令和5年度も、いよいよ最後の1か月を迎えます。新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけが5類に変更になって以来、制限が多かった学校教育に多様な活動を取り戻すことに努力してまいりました。関係者の皆様の目にはどのように映ったのでしょうか。

その活動の中で、1月および2月の学校だよりで予告としてお知らせした2つの取組について詳しくお伝えします。

1点目は、2月17日(土)に鶴見公会堂で開催された「鶴見あいねっと推進フォーラム」で、本校の3年生有志が発表の機会をいただいたことです。発表内容は、公園愛護会、地域活動ホーム「幹」さんのご支援のもと、地域行事の「七夕まつり」や「みきっずマルシェ」にて、独自に学習した内容で飾りつけや作品の展示をしたこと、クリスマスに、竹を加工してランタンを作り、地域に飾ってもらったことについての紹介です。それぞれが学んだことを明快に、また堂々と語る姿に、本校の教育活動で目指している「思いをもつ力」「やり抜く力」「関わる力」が存分に発揮されていたことから感動を覚えました。会場からの大きな拍手は、さらにあさひっ子の成長のエネルギーとなったことでしょう。



2点目は、一昨日2月27日(火)に本校校庭で行った、衛星による測位システム(GPS)を活用することで、運動量や速度、加速度を可視化できるテクノロジーを活用した「慶應キッズパフォーマンスアカデミー」とのコラボレーションによる運動プログラムです。冷たい北風が吹く中、神奈川県と横浜市の教育委員会、東京都私立学校教員が視察に、地元ケーブルテレビ局、地域誌、教育関係出版社、スポーツ用品開発販売会社が取材に訪れる中、6年生がはつらつとプログラムを体験する姿を披露できました。この取組は、ICTを活用する未来の学習の在り方を模索する意味で注目されており、教育界への高い有効性を実証するものです。様子については、公式SNSを参照ください。

いずれも、将来を担う子どもが予測不可能な未来を生きるための学びを見据えたもので、これからも、このような学習活動をどんどん取り入れていきます。(なお、本取組については、「ちゅうでん教育財団」の助成金を活用して取り組んでいます)

去る2月26日(月)には、上記活動を含む一年間の取組を通して本校の教育活動の意義をご報告するための、学校説明会を開催しました。コロナ禍以前は、PTA年度末総会と同日開催で実施しておりましたが、今年度のPTA総会が紙面での決議になったことから、参加人数が少なくなってしまうのではないかと心配しておりました。しかし、PTA校外委員を選出する「地区班長会」に引き続き開催したことで、多くの方にご参加いただきました。それでも、当初準備していた座席数が多すぎたのか、空席が目立っておりまして、今回は思い切ってその空席に本校職員が着席してみました。せっかく保護者の皆さんと教職員が近い距離に着席したので、お話しする内容を小さなまとまりにして区切り、その合間を利用して4~5人の小グループで説明した内容についてのディスカッションを行ってみたいところ、ちょっとした懇談会になったのです。



当初は、慣れない状況だったからか、なかなか会話にならなかったようでしたが、次第に意気投合し、たくさんの弾む声が聞こえてきました。「瓢箪から駒」とでもいいでしょうか、終了後にとったアンケートからは、とても建設的な意見や感想がたくさん届きました。ご指摘分を含め、今後の保護者会のあり方を考えるよい機会となりました。アンケート結果は、右に示したQRコードよりご覧いただけます。



【参加者の声】

旭小学校としては、コロナ禍で忘れていたものを取り戻すきっかけを見出した一年だったと思っております。過去の前例にとらわれず、今後も新しい時代のニーズに即して、新時代の教育を模索していきます。今後とも、ご支援、ご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。関係者の皆様の今年度のご支援に対し、心より感謝申し上げます。